

【令和2年度第1回】江差町総合戦略検証委員会 議事録

開催日時 令和2年10月30日（金）
午後1時30分～午後3時45分
開催場所 江差町役場 3階第2委員会室

〔会議次第〕

- 1 開会
- 2 町長挨拶 江差町長 照井 誉之介
- 3 委員長挨拶 北海道教育大学函館校国際地域学科 准教授 古地 順一郎
- 4 会議成立宣言 （江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第2項）
- 5 議長選出 （江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第1項）
江差町総合戦略検証委員会 古地 順一郎 委員長
- 6 議事
 - (1) 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第1期江差町人口ビジョンの最終検証について（計画期間全5年間の総括）
【説明資料】
 - ① 江差町総合戦略 年度ごと成果調査シート
 - ② 江差町総合戦略 可視化（見える化）資料
 - ③ 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終検証に係る検証委員意見に対する回答書
 - ④ 第1期江差町人口ビジョン達成状況に係る検証結果
 - ⑤ 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第1期江差町人口ビジョン
【説明順】

本検証委員会の開催前に会議資料は事前配布しているため、説明の詳細は割愛し、主要事業の概要を一括して各所管課より説明した。

説明順：産業振興課 → まちづくり推進課 → 追分観光課 → 町民福祉課
→ 健康推進課 → 社会教育課

また、主要事業の概要説明に引き続き、人口ビジョンの検証結果について、まちづくり推進課より説明した。
 - (2) 質疑応答及び意見交換（検証作業）
資料説明の終了後、一括して検証作業としての質疑応答及び意見交換を行った。
 - (3) 検証結果の総括
質疑応答及び意見交換の結果をまとめ、古地委員長が総括した。
- 7 その他
- 8 閉会

〔出席者〕

◎委員	委員長	古地 順一郎
	副委員長	鈴木 玲一
	委員	北浦 勇, 北見 孝幸, 久米 早苗, 紺井 一重, 西海谷 朝子, 庄司 寛, 高岡 広明, 田中 伸幸, 田畑 昌伸, 中野 志帆, 長尾 和子, 幅口 一路,
	委任状	藤元 純

以上15名（全17名中）

◎町	町長 照井 誉之介
	副町長 田畑 明
まちづくり推進課	課長 尾山 徹, 主幹 長尾 恵一, まちづくり推進係長 伊藤 公
産業振興課	課長 出崎 雄司
追分観光課	課長 安田 克臣
健康推進課	課長 白鳥 智子
町民福祉課	課長 竹内 強
◎町教育委員会	教育長 太田 誠
社会教育課	課長 大坂 敏文
	以上11名

以上、合計26名

議 事 録

(午後 1 時30分)

1 開会

2 町長挨拶

(町長)

本日は、大変お忙しい中、令和元年度第1回江差町総合戦略検証委員会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

ご承知のとおり、急速に進む少子高齢化と人口減少、都市部への人口集中問題に対応するため、国と地方が一体となって地方創生に取り組むこととなりました。これを受け、江差町も平成28年3月に「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定致しました。

人口ビジョンあるいは総合戦略の策定にあたっては、幅広い年齢層からなる町民をはじめ、産業界や行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア、いわゆる「産官学金労言」で構成する組織で審議することが重要とされました。

こうしたことから、町は総合戦略検討委員会を設置して、様々なお立場、職種、経験をお持ちの皆様へ委嘱させていただきました。また、当初のメンバーと若干は変わっておりますが、引き続き皆様には、総合戦略策定に携わっていただいた経験を生かしていただくため、総合戦略検証委員会の委員としてご協力いただけてきたところでございます。

皆様それぞれに何かとご多忙中のところ、貴重なご意見、ご指導をいただけてきたことに深く感謝申し上げます。

さて、ご案内のとおり第1期の総合戦略が令和元年度をもって終了しました。町は、若者のU I J ターンを促進するため各種の施策を講じてまいりました。

今回をもって、第1期総合戦略の検証作業は最後となりますが、歴史・文化・自然など地域の資源を有効に生かした地域づくりを、今後も進めてまいりたいと思います。引き続き、ご意見等お寄せ下さいますようお願い申し上げますとともに、これまでのご支援に深く感謝申し上げ、私からのお礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

3 委員長挨拶

(委員長)

皆さん、こんにちは。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

平成28年度から、5年間にわたって江差町第1期総合戦略の進捗状況と成果を検証してきた当委員会も、今日が最後の開催となります。時間が経つのは本当に早いものです。委員の皆さん、役場の皆さんと、総合戦略検討委員会でさまざまな議論をしたことが昨日のように感じられます。委員の皆さんにおかれましては、ご多用にもかかわらず、長期間にわたって総合戦略の進捗状況を見守っていただくとともに、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

また、町役場の皆さんにおかれましては、委員の皆さんからのご意見やご要望に対して真摯にご対応いただきまして、誠にありがとうございました。本日の会議資料を含めて、細かいデータや可視化資料の作成などご苦勞をおかけしたことと思います。おかげさまで、総合戦略の取り組み内容や実績、課題がずいぶん分かりやすくなったと感じています。ありがとうございました。毎回も申し上げますが、このようなデータや可視化資料は、町民の共有財産です。今後のまちづくりを考える上で積極的に利用していただきたいと思います。

私としても、第1期の総合戦略というのは、個人的にも江差町の政策に関わらせていただく最初の機会、それから、色々な形で学生とともに関わらせていただいております。そういう点でいうと総合戦略というのは私にとっても思い入れのあるものですので、町民の皆さまにもこういう形で貴重な機会をいただいたことに改めてお礼を申し上げたいと思います。

さて、改めて確認しておきますと、第1期総合戦略は、国の地方創生政策の下で、人口ビジョンとともに策定されたものです。色々と少子高齢化等で急速な人口減少が進んでおりますけれども、そういう中で地方の持続可能性をどういうふうに確保していくのかということで、総合戦略と人口ビジョンがともに作られたというわけです。

江差の場合、特に特徴的なのが具体的な人口目標値を掲げたということです。2060年に国と同等の高齢化率39.9%を目指そうと。もともと社人研の推計値では50%を超える高齢化になると見込まれていましたけれども、江差の場合は国と同様の39.9%にするために何人の人口減少を抑えていけばいいかということで、60人という数字が出てきました。かなり野心的な数字だったと思いますけれども、それに向けて過去4年、5年取り組んでまいりました。数字に関して言えば、達成できたところと達成できなかったところがあると思います。今回、人口に関しては目標値に届きませんでしたけれども、一方で社人研の推計値の部分は確保出来ているという点でいえば、皆さんの取り組みが一定の成果を上げたのではないかと思います。

今年度から総合戦略は第2期に入っております。第6次総合計画の下で、その重点施策として展開しておりますので、今日皆さんにご検証いただいたことが、さらに第2期の総合戦略の実施を改善していくという形になろうかと思いますので、色々と忌憚のないご意見をいただければと思いますので本日もご審議の程よろしくお願いします。

4 会議成立宣言

(事務局)

江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の半数以上の出席があるため会議が成立することを宣言した。

5 議長選出

(事務局)

江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、委員長が議長になることを説明した。

(委員長)

委員長である古地 順一郎氏が議長に就任した。

(午後1時45分)

6 議事

- (1) 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第1期江差町人口ビジョンの最終検証について（計画期間全5年間の総括）

（議長）

第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について、各課より説明を求めた。

【説明順】

- ① 産業振興課
- ② まちづくり推進課
- ③ 追分観光課
- ④ 町民福祉課
- ⑤ 健康推進課
- ⑥ 社会教育課

（産業振興課長）

私からは、見える化資料と検証委員に対する回答書、この二つの資料をベースに説明します。

見える化資料の2ページ目です。一×二×三業懇話会（いちにのさんぎょうこんわかい）の開催ということで、活動内容も含めて若干説明します。この事業につきましては、平成28年から実施されておりまして、町内の一次産業二次産業三次産業を結び付けて、新たな商品開発をみんなで作り上げましょうというコンセプトで始まっております。この間、スナップエンドウを使ったパンの製造、あるいは昨年からは五勝手屋さんの紅金時、これはメンバー自ら播種から始めて今年収穫しました。五勝手屋さんは、皆様ご承知のとおり今年で創業150周年です。今秋にこの復刻豆を使った羊羹が製造される予定です。復刻羊羹までは懇話会の方で、来年度以降は五勝手屋さんがこの復刻羊羹をビジネスとして取り扱っていただけるような形で取り進めていきたいと思っております。それと質問書の方で「すごくいいアイデアで取り組みもいいんですが、どうなんですか」という意見が来ております。実はこの懇話会、いろんな業種の方々が集まっていますので、皆さんが一堂に会するのが非常に難しい団体でもあります。ですから、今年からちょっと考え方を改めまして、三業懇話会というよりは、町民を巻き込んでそれぞれの取り組みを三ツ星スタイルというような形で、来年度以降の仕組みを変えていきたいと考えておりました。

次は、可視化資料の5ページ左上、農地流動化促進事業です。平成29年からこの事業を行っておりますが、この事業を行うきっかけとなったのは、来年から江差の北部地区の農業基盤整備が始まります。約700ヘクタールの農地を区画拡大あるいは用排水路の整備といったもので、総額100億くらい的大型プロジェクトとなっております。第1期の計画として、来年から水堀地区、ここに約25億7千万円かけて7年ほどで事業を完了する見込みです。このためには、今ある農地の集約集積が必要だということです。他町の方々がこの地区に入って入作をするよりは、町内の高齢者が町内の若手の農業者にスムーズに農地を移行できるような制度を作りましょうということで、売り手あるいは買い手に対して助成をしてきたものです。

来年から始まる基盤整備ですが、人口が減っていく中で農業者の数も減っていくということです。ですので、今以上に作業効率のいい農業と労働時間の短縮こういったものを次の一手として考えております。それと、圃場の排水性が良くなるということです。そうすると、高収益作物。キーワードとして、高栄養なモノ、高品質なモノ、そして高収量なモノ。この3つをしっかりと組み合わせたモノを作っていかなければなりません。また、北部農地の大規模化が進む一方で、それ以外の農地の扱いでございますが、小さな農業のことも考えていく必要があります。若者や移住者をターゲットに、パソコンは農機具の一つだというフレーズが最近出ております。

こういったもので先人の知恵をどうやって移住者につなげながら、今流行りのパソコン・ネットを使った販売などを、小規模経営にも向けていくのかということを考えておりました。昨年の江差地区は、5億3,300万円の農業販売金額ですが、ここをもう少しフレキシブルに上げていきたいと考えております。

次にその下、栽培漁業の推進、あるいはニシンの水揚げ、ナマコ、江差ニシン活用促進対策、もう一つ飛んで、ブリなどの活〆技術、わかめ・昆布・ホヤ活用試験事業、これを合わせて説明します。栽培漁業の推進で、まずニシンの水揚げ単価ですが、今、檜山管内、八雲町も入れて関係6町の皆さんで力を合わせて、毎年100万尾の稚魚を放流しようという取り組みをしております。その成果が少しずつ出てきて、江差の前浜でもニシンの群来が見られたり、水揚げが少しずつ上がって来ています。それを江差産ニシン活用促進対策事業ということで、ただ外に出荷して終わるのではなくて、非常にまだロットが少ないものですから、単価も叩かれているという状況ですので、町長の指示によりまして、まずは江差産のニシンを町内でしっかり流通させるという取り組みを行っております。この取り組みのことを事業No.9で説明しています。なんとか江差産のニシンを町の「プライドフィッシュ」として、作り上げるようなモノを来年度以降も引き続き考えていきたいと思っております。

また、ナマコですが順調に単価が上がってきましたが、今年のコロナの関係でやはり需要が停滞しています。そういった部分では非常に苦戦をしておりますが、実はこの3月にG I登録をしました。高付加価値、そして透明性ある産地ということで、さらに増養殖に取り組んでいるところです。資料の7ページです。事業ナンバー10番、11番ですが、漁業者がただ獲るだけではなく、一手間、二手間かけて高付加価値ということで、サクラマスの船上活〆をしております。ただ今年の春先、これもコロナの関係ですが、マスは非常に獲れているんですが、操業する度に赤字になってしまうという状況がありました。単価が下がってしまい、乗り子（船員）の人たちに賃金を支払うとマイナスになるということで、魚がいるのに網をかけられないという苦しみを、身をもって非常に感じた年となりました。

それとわかめ・昆布・ホヤの活用試験事業です。平成28年から回遊性魚種に頼らないということで、前浜で区画漁業として、わかめ・昆布・ホヤの活用試験を行っています。まだロットが少ないことと、芽落ち。そういったことで製品にはなっておりませんが、区画漁業権は5年間行使できますので、この中で少し形を出していきたいと思っております。

それと次は、検証委員会に対する回答書の4ページです。がんばる商店街の事業に対して色々意見をいただきまして、「事業効果・検証をしっかりとってもらいたい」ということに関してです。残念ながら、アウトプットについては実績報告としてあがっておりますが、アウトカムについては検証出来てないというのが現状です。また、商工会では、経営発達支援事業というものを令和3年度から5年間取り組むということです。その中ではアウトプットの指標として、まずは国のビッグデータを活用して町内の経済状況を分析したい。これはマクロ的な視点でやられるんだろうなと思います。もう一方、ミクロ的な視点で町内の小規模事業者の経営実態調査。これはアンケートあるいはヒアリングで聞き取りを行いながら実態を把握するということです。このことについては、年1回公表するというになっておりますので、できればデータを役場と共有して、町のHPや広報紙などで町民の方々にお示しできればと考えております。以上、抜けているところもありますが、質問などでお答えしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

(まちづくり推進課長)

私から、まちづくり推進課所管事業を説明します。成果調査シートにより説明します。

事業No.2「江差町まちづくり推進交付金創設（地域ブランド開発等支援）」です。第2期でも継続して、地域住民の特産品開発を支援しながら、戦略の目的を前進させてまいります。PRは、広報紙や町HPだけでなく、職員が直に住民のもとに出向いて、制度活用を促してまいります。

ます。

事業No.3「ふるさと納税特典品の充実」。日本全国で激しい競争が生まれています。返礼品の増、さとふるなどのポータルサイトを増やしながら認識していただく。これらを進めるための、体制作りを進めて行く必要があると考えます。なお、委員の中からはいただいていたご意見で、近隣町の実績についてお尋ねがありました、追加資料で机上配布していますので参考にいただければと思います。

事業No.30「檜山7町と東京都特別区との連携事業」。この事業は、第1期で終了しましたが、上ノ国町と2町で数年間継続したいと考えで、現在事業展開しています。檜山、あるいは江差は関東圏の皆様にとって認知が薄い。こういった積み重ねを交流人口や関係人口の拡大につなげるための工夫をしっかりとまいります。また、新たなつながりももちろんですが、私自身が昨年出向いた別な事業での下北沢でのPR活動では、事前に東京の江差会や、江差追分会支部に声がけすることで関係性を強くすることにつながるのだと感じました。

事業No.31「海・山・川！！障がい者が満喫するバリアフリーレジャーと地域づくりの相互連携事業」。江差福祉会は乙部にバリアフリーホテルを運営し、車椅子で乗降可能な大型バスも保有しています。ここを中心に檜山全体で、旅行をあきらめている身体が不自由な方々を迎え入れることができると考えています。現在、担当部局では、パラリンピック事後交流のホストタウンの可能性を探っています。

事業No.33「定住自立圏構想の推進」。今、人口を少しでも減らさない町づくり、住んでいる住民が、今以上に住みやすい町を目指した施策を展開する必要があります。例を挙げますと、江差町民が、上ノ国町体育館の利用を同町の住民と同様に使用できるような枠組みを作りました。また、江差町民が上ノ国まで行かなくても、「まるやま」にある介護予防の機器を利用したフィットネス講座が受けられる仕組みをサツドラHD(株)との連携事業として、今年度テストしています。これを次年度以降につなげていきたいと考えています。あるいは、地域公共交通の利便性を高めるための構想を早急に検討するなど、高齢化社会でもできるだけ安心して生活できる環境づくりが、次年度以降の課題です。

事業No.34「『えさし』同名自治体連携事業」。ポールスター札幌前で実施している物販は、通行される方々が2度見していくなど注目度が高く、PR効果は単町で行うよりも大きいと感じています。本来でしたら住民同士の交流につなげたいですが、距離的な課題があります。大上段に構える事業展開ではなく、両町での関係人口づくりを進めて行きたい。

事業No.35「北の江の島構想策定（H29年度）」。「第6次総合計画、あるいは都市マスに基づきながら、かもめ島やその周辺の賑わいをつくるために何が必要なのか、構想の具現化に向けて企業のアドバイスを受けながら進めています。そういった中から、施設などのゾーニングや想定される機能を配置した場合のランニングコストのイメージをつくるなど、基本計画、実施計画の早期策定に向け動いています。

事業No.36「江差マリンスポーツ交流センターの整備（H29年度：地方創生拠点整備交付金事業）」。「決して順調に進んでいるとは言えません。しかしながら、この町の強みは、マリンスポーツのみならずマリンレジャーを楽しめる、道南としては数少ない町、場所であることは間違いありません。その強みを生かすための施設であり、次年度以降の対策について産業振興課、追分観光課とともに協議しているところです。

事業No.38「江差町まちづくり推進交付金創設（宿泊施設整備促進事業）」。「町として待望の新たな宿泊施設が誕生しました。供用開始し、少しずつですがお客さんも入っているようです。行政としてできる、例えばPRなどといったサポートをしながら事業者の経営を支援してまいります。

事業No.45「江差町企業立地の促進及び雇用の奨励に関する条例に基づく雇用奨励助成」。今後の展望にあるように、まちづくり推進交付金を活用した空き店舗等を活用した新規の創業・起業の件数については実績があるものの、本助成制度の利用企業はなかなか見込むことが難しい

状況にあるため、トップセールスを柱とした企業誘致の推進を図ってまいります。

事業№46「江差町まちづくり推進交付金創設（空き店舗等再生促進事業）」。

まちづくり推進交付金の地域ブランド開発等支援と同様に、第2期でも継続して、地域住民の特産品開発を支援しながら、戦略の目的を前進させてまいります。PRは、広報紙やHPだけでなく、職員が直に住民のもとに出向いて、制度活用を促してまいります

事業№47「江差町地域活性化協力隊への支援」。

地域の若手の活動は町の大きな力になります。第1期まちづくり推進交付金を第2期へ移行し、継続して若者交流を含めた地域交流事業を促進していきたい。

事業№50「地域おこし協力隊の募集」。

江差町として、地域おこし協力隊募集の根本にあるのは、任期満了となる3年間を経過した後、この町にとどまり活躍してくださること。そういった観点から、今後も募集していくことを念頭に関係課と協議し事業展開してまいります。

（追分観光課長）

追分観光課です。私からも成果調査シートで説明させていただきます。

まず、3ページになりますが、5番、6番のぷらっと江差についてです。ぷらっと江差につきましては、開陽丸青少年センターに店舗を展開しておりますけれども、これまで江差観光みらい機構の方で運営をしていますが、レジの購入ですとか、専門家の助言をいただきながらこれらの店舗づくりを図ってきたという状況の中で、地域の特産品を取り扱うということで拡大をして来ております。今現在アンテナショップとして機能しておりますけれども、売上等につきましても今回見える化資料の方に掲載をさせていただいております。15ページに過去2年の売り上げを掲載させていただいております。観光客の入込等に非常に左右されるという状況にありますけれども、5月それから夏場での売り上げが非常に伸びていますが、やはり冬場の売り上げが非常に少ないということでもありますから、今後も地域の特産品、管内、様々な品揃えを拡大していきたいと考えております。また、今年からWEBショップを展開しております、これらを活かしながらPR活動を含めて、ぷらっと江差の拡大、PRをしていきたいと考えております。

続きまして7ページです。21番の江差観光みらい機構の運営強化、19番の江差観光まちづくり協議会についてですが、観光まちづくり協議会は平成29年度に立ち上げをしまして、日本遺産の魅力発信推進事業ということで、3年間の文化庁の補助を受けながら事業を進める母体として設立されました。これらが日本遺産にかかわる事業の展開をしていきながら、もう一つは、江差観光みらい機構の設立にあたった助言、事業の運営に対する意見反映をして来ている団体です。課題としましては日本遺産の部分が、今後こういった形で展開をしていくかということも、具体的な事業展開に向けた取り組みが必要となりますが、今後まちづくり協議会としても、この後、みらい機構が、地域DMO候補法人から登録法人へ移行するということに向けて、様々な事業展開に向けた意見を反映させたいと考えています。

20番のDMOの推進員の配置ですが、先ほどまちづくり推進課から説明のありました地域おこし協力隊の関係にもつながってきますが、DMO推進員として配置となった協力隊員がおりまして、隊員を卒業し、現在2名が江差観光みらい機構職員として活躍している状況です。

21番の江差観光みらい機構の運営強化の部分ですが、平成30年10月にみらい機構が設立されて、平成31年度から本格稼働を始め、まだ立ち上がって間もないですが、みらい機構の取り組みとしましては、昨年大きな柱として、情報発信、体験観光、物産販売の3つを元に事業を取り組んできたという状況です。特に情報発信の部分では、見える化資料8ページに載せていますが、まずはみらい機構の立ち上がりの事業としまして、これまでのまちづくり協議会の日本遺産の事業受託、そして町からの受託ということで、江差町観光ポータルサイトの管理・運営。日本遺産にかかる巨大ニシンのぼりの掲揚など行っております。また、昨年みらい機構がDMOの候補法人へ登録されたということで、さらにステップアップするため次の登録に向

けた取り組みを行っております。さらに、第3種旅行業の取得、または観光案内所のカテゴリー1、英語での観光案内ができるというような形の観光案内の充実ということで、組織立ち上がりの状況としては、地域の観光を担うという中で少しずつ成長して来ているという状況です。今後、具体的な事業を継続していく、こういった形で動いていくのかという部分で、現在アクションプランの策定を進めておりまして、それに向けてまちづくり協議会の方に図りながら、みらい機構の具体的な事業の展開を進めていきたいと考えています。

続いて8ページです。22番、23番の部分ですが、北海道教育大学函館校との連携ということで、みらい機構の設立にむけた取り組み等と大学の動きを連携しながら事業を進めて来ているところです。こちらの教育への支援、23番にありますとおり、対鷗館、道の駅のリニューアルに向けて、大学と連携しながら、クラウドファンディングやリノベーションという形の効果的な事業を続けてきました。今後、これらをどうやって活かしていくか、みらい機構のなかでも協議していかなければならないと考えています。

25番の体験観光メニューの構築。こちらも見える化資料の8ページに体験コンテンツのメニューを登載しております。これまで、町内での様々な取り組みをまとめながらメニューを作っておりますけれども、これらを活かしながらマリンスポーツも含めて、いろんなエージェント等と進めて来ております。実際に初めて行った部分、今後の取り組みで必要な部分、実績をとらえながら、ブラッシュアップを図って体験メニューは増やしていきたいということで、現在、様々な浜料理体験、海釣り体験、漁師の船に乗って外に出ていくような体験を検討しながら、お客様に楽しんでいただけるメニューの構築について動いているところです。

27番の都市向けのプロモーション活動で、これまで都市部でのプロモーション活動が続けながら、何とか江差の観光客増加を目指して来ているところです。回答書にも記載してありますけれども、都市部でのプロモーション活動を通じながら、実績として、これまでのクルーズ船の中での体験、お客さんの誘客、それからこういったプロモーションを通じて、コロナ禍で中止になっているところも多い中で、ツアーの問い合わせが若干ながらも増えてきました。今年は、コロナでツアーを満足にできませんでしたが、目に見える形で成果が少しずつ現れて来ていると感じます。コロナの中で、なかなか遠くからの方を観光客として呼び込むことが難しい状況ですが、今後もアフターコロナを見据えながら、そういった顔のつながりを継続していきたいと考えております。

続いて、観光コンテンツの充実ですが、ポータルサイトのアクセス数が年々伸びており、タイムリーな情報を常に発信していきたいと考えております。

続いて、10ページの日本でもっとも美しい村連合との連携です。こちら平成27年度に加盟し、この間、このブランドを活かしたまちづくりがこういった形で出来てきたのかということです。これは、地域の自然の美しさだけでなく景観・文化それら地域資源を活かした取り組みということですが、残念ながら具体的な町内の動きがみえておらず、清掃活動等、美化活動がメインになっている部分がありますが、やはりこれらの取り組みとしては、このブランドを町民の中で意識の醸成が今後必要になってくるのかと。改めて地域の魅力を育てていく、地域の文化を守っていく活動につなげていきたいと考えています。

続いて12ページです。40番の江差追分のイベント民泊の実証実験ですが、みらい機構に委託として行っておりますが、今年度、江差追分大会が中止となり実施しておりませんが、宿泊キャパが少ない状況の中で、やはりそういった要望が大きな部分で、これまで毎年15か所程度、60～70人で、延べ宿泊とすると、150人前後が宿泊しているという状況です。こういった状況も含めながら今後のニーズも考え実施をしていきたいと考えております。

13ページ、42・44の部分では、観光施設の観光案内板の入場表示ということで、インバウンド対策として、案内表示の英語表記を進めております。施設のW I - F I 整備ですとか、WEB多言語化ということで、それぞれ海外からの誘客に結びつけるための取り組みを進めております。実際に今の宿泊客がどれだけ入っているかという部分で、見える化資料にも海外の宿泊

者を載せておりますけれども、中国や台湾での伸びが出てきたため、そういったところの対策が必要となってくると考えます。ただ、現状は、コロナの影響で海外からの誘客が厳しい状況にありますけれども、今後を見据えたなかでの基盤整備ということで継続していきたいと思っております。以上、観光の取り組みということで説明を終わらせていただきます。

(町民福祉課長)

町民福祉課所管の事業について説明します。

「江差町総合戦略年度ごとの成果調査シート」18ページをお開き下さい。事業No.は59～60番と事業No.63～64番の4事業となっております。

始めに事業No.59「第3子以降の保育料無償化事業」です。町では、子育て世帯の支援策として町独自事業として平成26年10月より第3子以降の保育料無償化を実施してきました。

次に、事業No.60「幼児教育保育無償化事業」では、令和元年10月より、国の子育て支援策として全国一律に0～2歳児の住民税非課税世帯と3歳～5歳までの全ての児童の世帯で保育料が無償化されたところです。また、町では、数年前から小中学校の給食費の補助をしている関係もあり、無償化にあわせて10月から小中学校の給食費と同様に1/3の給食費の補助を保育園や私立幼稚園などに通う世帯に実施しております。

次に19ページ、事業No.63「学童保育所の開所事業」です。この事業は、働く保護者が利用しやすいように学童開設時間の時間延長を進めてきました。

次に事業No.64「水堀学童保育所運営補助事業」です。水堀学童保育所は、施設の老朽化により本年度、施設改修の整備を実施したところです。また、水堀学童保育所は、保護者会の運営で子どもの数が減ってくると運営が難しいという話を聞いております。

次に「見える化資料」16ページをお開き下さい。「江差町の未就学児童過去10年間の推移」です。平成22年には389人の未就学児童がおりましたが、平成31年には214人まで減少し、その差が175人、約45%の未就学児童が減ったことになります。中段の「町立保育園、町立私立幼稚園の在籍児童数の過去10年間の推移」では平成22年に保育所人数が114人、平成31年には101人となり、先ほど説明しました未就学児童の数が大きく減少しているのに対し、保育園の入所者は、ほぼ横ばいとなっており、働く保護者の割合が増えております。一方で、働く保護者の割合は増えていますが、入園者がほぼ横ばいということは、働く場所の数に増減がないという見方もできるとも思っています。幼稚園は平成22年の82人に対し、平成31年は38人となっており、人数は減っているものの、子どもの数における幼稚園の入所割合に大きな変化は見られません。この資料には記載しておりませんが、今後の子どもの推移でございますが、平成31年の未就学児童214人に対し、本年度より5か年計画の第2期子ども・子育て支援事業計画では、令和6年には150人にまで減ってしまうといったデータもあります。

次に、検証委員意見に関する回答に移ります。11ページ中段の「その他」をお開き下さい。転入者が数年後に江差町に残っているかをデータで示すことはできないかという意見に対し、住基データで転入者の保持率は示すことは可能ですが、紐づけされると便利な職業や所得階層まではデータにないという回答をさせていただきました。

総合戦略でお示ししました事業No.59～60、63～64番の4事業の成果としては、事業No.59や60番の事業など子育て世帯に対する支援策は充実しつつありますが、これが特効薬となって少子化に歯止めがかかるかと言われれば、そうではないと思っています。

次に、江差町には、税務署などの国の機関や檜山振興局、北電、道南うみ街信金や北洋銀行などの民間企業もあり、転勤族が多い町でもあります。転勤族の母親に話を伺ったことがありますので、ご紹介します。檜山管内は学力テストの結果は道内でも上位にあること、自然が豊かであることからすれば、子どもを連れてきたい、子育てしてみたい地域であるとおっしゃっていました。しかしながら、小学校の高学年あたりになると、中学校受検や高校受験を意識するようになり、江差には塾がない、多種多様なスポーツがないなどの話があり、子育ては家族

みんなで暮らすことが重要という認識はあるものの、このようなことがあって、子どもがいる家庭は、どうしても単身赴任が多くなってしまうのではないかというお話を伺ったことがあります。

今後の課題・展望として、第6次総合計画にも記載させていただきましたが、子育て世帯の支援については、国や北海道の動向をしっかりとつかむことや町独自事業の拡充策として給食費助成割合の検討、老朽化した北部保育所の改修又は新築、子どもの居場所づくりなどについて検討を加えてまいります。

地域から子どもの声や笑顔を見る機会が減ってくると、地域活力の停滞、活気がない町になってしまうと思っておりますので、保護者の働く場所の確保、雇用の創出や地元企業の育成・支援、子育てしやすい環境の整備、第1次産業の担い手の確保など、他課との連携を図りながら様々な支援策を複合的に組み合わせることで、少しでも緩やかに少子化の減少に歯止めがかかればいいかなと思っています。

(健康推進課長)

健康推進課所管の事業を説明します。当課の事業は「基本目標③江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくる」の5つの事業になります。成果調査シートの18ページをお開き下さい。57番、子育て応援券の交付です。取り組み実績ですが、紙おむつだけだったのを、お尻ふき、粉ミルクにも使用を拡大し、高い利用率となっておりますし、利用者からは「すごく助かる」との声を多くいただいております。課題としましては、利用者の利便性を図るうえで、利用券として配布しているものを、ICTを活用した利用方法ができないか検討が望まれています。今後の展望としまして、健診等を活用し、利用者の声や意見をいただき、制度の充実を図ってまいります。

62番、子供の医療費助成です。見える化資料は17・18ページです。子どもの医療費に係る自己負担分を全額助成することで、家庭の経済的要因に関わらず、子どもが必要な医療を受けることが出来ております。今後も事業は継続してまいります。

成果調査シート19ページをお開き下さい。回答書は10ページです。65番、道立江差病院での第1子分娩可能になるよう札幌医大への要望行動です。検討委員から「江差で安心して子どもが産めなければ若者定住などあり得ない！」とご意見をいただきました。事業の取り組みとしまして、札幌医大に対して継続的に要望行動を行ってきましたが、成果は得られませんでした。札幌医大自体の医師不足もあり、令和2年度より常勤医が出張医に変更となりました。日本産婦人科学会では、「公的医療機関において第1子分娩を取り扱うには複数の産婦人科医が必要」としており、札幌医大の医局が医師不足の中、道立江差病院に複数の産婦人科医師の派遣は現実的ではないと考えています。一方で、道立江差病院で妊婦健診を受けることが出来る環境は必要と考えますので、「道立江差病院の産婦人科の維持」を継続的に要望して参ります。回答書に記載のとおり、妊娠出産を含む子育て環境の充実として、平成30年度から不妊治療費助成、令和2年度から妊産婦健診等に係る交通費助成を開始しました。要望行動と同時に、子育て世代への切れ目ない支援体制の充実に向けてさらに検討してまいります。

66番、道立江差病院常勤医師に対する医師研究資金貸与事業の実施です。道立江差病院の1年以上勤務する常勤医師が年々減少しております。先ほども述べましたが、札幌医大自体の医師不足もあり、常勤派遣が困難な状況にあります。医師確保対策として事業の継続と同時に、道や南檜山圏域町、関係機関が協議し作成した「南檜山圏域の医療を確保するための行動方針」に基づいた取り組みを協働で推進してまいります。

67番、看護師等育成確保対策です。実績としましては、9名が町内医療機関に就職し活躍しておりますが、新規貸付者が年々減少しております。平成26年度に制度がはじまり6年を向かえますので、事業のあり方、看護師確保のあり方もあわせて制度見直し等の検討をしてまいります。

(社会教育課長)

社会教育課です。まず、成果調査シートで説明します。8ページを開いてください。8ページ具体的な施策の「②観光ブランド化の推進」の中の26番、「江差町歴史文化基本構想の策定」です。基本構想そのものについては平成28年度に策定しました。平成29年度以降の活動につきましては、「エエ町、江差宝箱会議」の開催ということですが、これはどういうことなのかというと、江差町にはいろんな文化遺産がたくさんあります。それらの宝箱をデータベース化して、保存活用していこうというのが大きな狙いです。平成29年度以降については、江差追分を宝箱に認定して、江差追分に関する様々な資料等のデータベース化の作業を現在進めているところです。まだ、町民の皆さんにデータベース化の資料を公表できる段階にはなっておりません。今後も継続して進めていく事業の一つになります。また、歴文の中で平成30年3月に教育委員会が中心となって作成しました、江差の自然と人の営みを表した生活季節暦であるフェノロジーカレンダー。これを全町民に配布しました。観光客にも希望する方には配布しております。自慢するわけでないですが、フェノロジーカレンダーは評判が良いと聞いております。検証委員会から5ページで質問がありました「WEBで閲覧できるようにすることは可能かどうか」という質問ですが、回答に「一部の画像について所蔵者の許可が必要」と書きましたのは何を意味するかというと、江差屏風であります。市立函館博物館にすでに使用許可のお願いをしています。多分許可が下りると思いますので、11月中には町HPで閲覧できる体制を整えたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

次に29番、日本遺産登録です。日本遺産の登録は、平成29年度までは社会教育課が中心となって進めてまいりました。無事認定されて、以降の事業については追分観光課が中心となって各種事業を展開しておりましたけれども、では教育委員会・社会教育課で何ができるのか。まずは町民を対象に、日本遺産ストーリーのまち歩きをやりたいということで、これまで何回か開催しております。いにしえ街道から鷗島までの遺産のストーリーを、まちの希望者に学芸員が説明して歩いて宣伝をしてきたところです。また、ご存じのとおり函館市内の中学校。江差町に研修旅行にたくさん来ております。その研修旅行の町内散策の講師ということで、江差町の日本遺産を学びたいということで、講師役も教育委員会で務めております。そういう取り組みを通じながら、日本遺産のことを子ども達に伝えているという状況です。今後とも進めていきたいと思います。ちなみに、今日も函館の中学生在が町を歩いておりました。

続きまして、見える化資料で14ページを開いてください。次は子ども達に、です。江差こどもみらい応援プロジェクトという取り組みでは、企業版ふるさと納税を活用して、平成30年度と令和元年度の2年間行いました。残念ながら令和2年度はコロナの影響もありますけれども、企業版ふるさと納税がなかったということで計画ができませんでしたが、平成30年度は「さかなクン」の講演会、令和元年度は「米村でんじろう」を皆さんご存じかと思えますけれども、そのプロダクションから「ジャイアン村上」のサイエンスショーを行いました。子ども達は、テレビで見ることはなかったさかなクンを生で見て、本当に感激していました。さかなクンからは、江差町で水揚げされた魚について、とても興味深い説明をしていただきました。こういう小さい町に有名人が来て、このような講演をしていただくことは、なかなかできないことです。役場の1階窓口の左横には、さかなクンの絵とサインを掲示しております。子ども達は、本当に生き生きとして喜んでおりました。同じく、でんじろうのサイエンスショーもそうでしたが、ぜひこういう事業を、企業版ふるさと納税を活用して、子ども達に夢を与えていきたい。そういう事業計画を考えていきたいと思っています。社会教育課からは以上です。

(議長)

第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証の説明に続き、人口ビジョンの検証結果について説明を求めた。

(事務局)

それでは私から人口ビジョンの検証結果を説明します。説明する資料につきましては、「人口ビジョン達成に係る検証結果」です。まず、はじめに昨年の検証結果について、おさらいということでお話しします。ご承知のとおり、この人口ビジョンというのは、今、各課から説明がありましたが、総合戦略の各施策は、人口ビジョンを達成するためにやっているということです。では、人口ビジョンで何を定めたかということ、江差町が2060年に持続可能であることの人口目標を定めたということ、そのために国の高齢化率39.9%を目指そうということを定めたものです。去年が、最終的検証という位置づけの検証委員会でしたが、どんな検証結果だったのかといいますと、結論は、道半ばで達成は非常に厳しいということとして、高い目標ではありますが、それは維持して第2期に引き継いでいきたいと思いますということでした。人口ビジョンの基礎となる資料というのが、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研。国の人口推計に関する研究所で、各地方公共団体はこの推計を基に人口ビジョンを作っています。江差町も同じく社人研推計を基に第1期の人口ビジョンを作りましたが、それは平成25年の推計値を用いて作りました。去年、令和元年の推計が社人研から示されましたが、平成25年推計と比べ総人口では大きな違いは見られませんでした。しかし、2020年から2035年の数値を見たら、令和元年の推計値は平成25年の推計値より少しだけ良くなっていました。こうしたことから、この間、やってきた総合戦略の取り組みはあながち外れていたわけではなく、一定の効果があったものと捉えました。従いまして、引き続き総合戦略の施策を取り組んでいき、地道ではありますがその効果を期待していこうという、総括を行ったところです。

今回の資料は時点修正で、去年の資料から令和2年度、令和元年度の数値を付け足した程度のものであります。

1ページをご覧ください。青字で書いたところが今回の資料の付け足し部分です。吹き出しを見てください。今年の10月1日現在の住基人口を記載しました。令和元年推計、平成25年推計と比較しても、ほぼ同じ状況となりました。

次に2ページの吹き出しです。年齢3区分人口という考え方があります。これは0～14歳を年少人口、15～64歳を生産年齢人口、65歳以上を老年人口とありますが、その区分です。住基と比較しましたが、令和元年、平成25年推計とも、やや改善傾向がうかがえました。

3ページには、自然増減・社会増減です。自然増減・社会増減という言葉が、人口ビジョンを説明するときに出てくるのですが、自然増減は何かということと出生と死亡の差で、社会増減は転入と転出の差です。その傾向を記載したもので、毎年数字のばらつきはありますが、そう大きな流れの変化はありませんでした。

4ページに注目していただきたいです。去年までは、図表4の合計特殊出生率が1.31ポイントのところで表が終わっていましたが、今回、令和2年度を追加しました。令和2年度は1.38ポイントで、前回より上昇していました。その差0.07ポイント、これを大きいとみるか小さいとみるかは難しいですが、上がったことは事実であり、総合戦略の取り組みの成果として受け止めたいと思います。

最後に12ページですけれども、人口ビジョンの目標値に対して令和2年10月の年齢3区分人口を、小さいですがグラフに点を置いてみました。いずれの年齢区分も目標値を下回っている結果がわかりますが、冒頭に申し上げましたとおり、達成は非常に難しい状況。しかしながら挑戦的な目標値を掲げたうえで果敢に取り組んでいきたいと考えています。

以上で人口ビジョンの説明を終わりますが、人口データをどう分析するのか、委員長からも転入者のその後の動向についてデータのリクエストがありました。有識者やコンサルの専門的な知見をいただきながら、いろんな方法を探りながら施策との関係性を分析することが、大事だと思っております。その分析結果から、効果的な施策の展開に結び付けていけるような仕組みを、役場の中でも追及していきたいと思っておりますので、今後とも委員皆さま方のご指導、

ご助言をお願いしたいと思います。

(10分間の休憩を取った)

(午後 2 時55分)

(議長)

検証作業に入る前に、健康推進課長へ「妊娠届出数」に関する資料説明を求めた。

(健康推進課長)

「第1期江差町人口ビジョン策定状況にかかる検証結果」の4ページ目をご覧ください。左側に図表4、合計特殊出生率というところがあります。どの表も右肩下がりの中、この表だけが右肩がちょっと上がっています。今日お渡しした資料の中に「合計特殊出生率とは」という説明が書かれていますが、この部分が、平成20年から平成24年に比べて0.07ポイント上がっているという状況がありました。ここがなぜ上がったんだろうかということをちょっと考えてみたんですけども、まず一つは、これが全部かどうかわかりませんが、子育て施策として、平成21年度から妊娠した方の妊婦一般健康診査の費用助成が、この前は5回分しか費用助成をしてなかったのが、14回分に増えています。その後、平成27年度に子育て応援券の制度が始まり、子供医療費の無料化が18歳まで拡大し、第3子以降の保育料の無償化が始まりということで少しずつ子育てをする環境が整ってきたというところが、ここの右肩上がりの数字に影響したのではないかなというような分析をしております。

その中で、今日渡した資料を見ていただくとわかると思うのですが、妊娠届、母子手帳をいただくときに妊娠届出書を役場に持って来ていただくんですけど、平成20年度～平成24年度までは第1子の妊娠届が45.6%だったのに対し、平成25年度～平成29年度は36.3%。第1子の妊娠は下がっているんですけど、一方、第2子以降の妊娠が平成25年度～平成29年度に関しては63.7%、平成20年度～平成24年度は54.4%と、近年増加しているということで、1人ではなく2人目以降のお子さんを産み育てていただきたいというところが、少しずつ定着して来ているのではないかと考えております。以上です。

(2) 質疑応答及び意見交換（検証作業）

(議長)

ありがとうございます。すごくいいポジティブなお話で、心強いなというふうに思いますけど、次の5年間でどうなるかということもしっかりと見ていけると、今の分析が、説得力が増してくるのかなというふうに思います。やはり、色々な施策を組み合わせる積み重なっていくことで、地道であったとしても少しずつ結果が出てくるということの、いい例になってほしいなというふうに思いました。

それでは、質疑応答・意見交換に入っていきたいと思います。まずは、せっかく来ていただいているので、皆さんに一言おっしゃっていただきたいと思いますが、まずはフリーでどなたか、いかがでしょうか。口火を切っていただけると助かります。

はい、A委員。

(A委員)

今の話の中で「パソコンは農機具の一つ」という、それがすごいなって思ったんですよね。友達が上ノ国町にいますけども、やっぱりネットで、自分で作ったインゲンをネットで販売しているんですよね。なので、どんどんそういうふうに農業も変わっていったんだなあと感じました。

あと自慢じゃないですけど、北海道江差観光みらい機構、頑張っているなあと思いました。いろんなところに体験であったり、情報発信であったり、そういうことが一般町民にもこれから見えるように。今は、自分たちが見えてるけれども、そういうことがこの後に一般町民にもわかるようになるなあと思って、ちょっと自慢しました。良かったなあと思いました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。先日も町歩きツアーで大学生と江差にまいりました。例年5月にやっているんですけども、今回コロナで出来なかったんですが、先週来させていただいて、A委員にご案内いただいて学生もすごく喜んでいましたので、町民のみなさんもたまにそういうのに参加してみると、新たに江差について学べることもあるんじゃないかなというふうに思いました。あとは、いかがでしょう。

(B委員)

農地流動化促進事業の件について質問ですが、これから栄養価の高い食材をつくってだとかっていうお話が中にあったと思うんですけど、具体的にはどんなものを作っていこうと思われているのでしょうか。

(産業振興課長)

農地流動化で大規模化をして何を作付けするのかということですが、奇をてらうような新たな品目を作付けするとか、そういうことよりは、今作付けしている水稻を中心に、土壌の環境を良くして、大区画化をして作業効率を上げて生産性の向上を上げるというのが、まず一つの狙いです。水田フル活用ビジョンということで、米の生産というのは国の方で調整されてきますから、そういった中で生産者の方々は、米を作ったり、あるいは馬鈴薯を作ったりブロッコリーを作ったりと、そういう減作を計算しながらやっているということなんです。生産者の皆様と話をしていきますが、基本は水稻をしっかり作付けしてもらって、それ以外の圃場は葉物で勝負していただきたいと考えております。

(議長)

ありがとうございました。あとはいかがでしょう。

(C委員)

成果の関係のK P Iにつきましては、とても良く出来ている書類だと思います。各部局の方々とこれだけまとめ上げるのは大変だっただろうと、敬意と感謝をいたします。そして、検証委員会への回答書ですが、私も読むと本当にそのとおりだなと思いますので、この回答で終わらないで、是非とも意見をもう少し重要視していただいて、何か2期目の事業につなげられるように、回答や意見等を活かしていただきたいと思います。説明もとてもお腹いっぱい消化しきれないですけども、すごく良く出来ているかと思います。まず、感想を申し上げます。

もう一点、実は私が一番気になっているのが、まちづくり推進の35番「北の江ノ島構想」の話でして、そこに対して全体的に見て感じましたが、構想を作っていくのであれば、もうちょっと予算の配分を今後考えていただきたい。構想をつくりながら、個別のマリンスポーツ推進事業をやったり子どもマリン体験教室をやったり、まあそれは確かに結構なことですけど、まずは全体的な構想を早く作っていただくための予算取りをして、町のシンボルである鷗島、そしてまた、ここに観光客を集客させて、江差の町の沖の、檜山の沖の鏡になるように施策をしていただきたい。例えば、厚沢部の道の駅売り上げが年間数億円稼いでいる、上ノ国もけっこ

うやっている、乙部もけっこうやっている、私は、この北の江ノ島構想が早く実現すれば、他の町村長が脅威に感じるくらいのことになるんじゃないかと思います。それが江差町のためでもあるし、観光の歴史のある江差の町っていうのを、やはり道民の方、全国の方、インバウンドの方にも、本当に是非知ってもらいたいのので、北の江ノ島構想に関してはもうちょっと予算を増やしていただければと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では、まちづくり推進課長。

(まちづくり推進課長)

C委員、ありがとうございます。予算の配分をということと、予算を膨らましてこの事業のスピードアップを、というご意見だったと思います。先ほど説明させていただきましたけれど、この後、20年先、30年先の人口を想定した中で、私たちはランニングコスト、そこを意識しながら、物を作るときに考えなくてはいけないというのが一つです。あと、どういう形で人を呼べるか、そういうところを皆様からご教授いただきながら、何をどういう形でどこに配置していくかということを、今、内部で検討し話し合っているのですが、なかなか皆様に示していけないというのが、本当に残念なところです。

第6期の総合計画の実施計画に関してですが、当然、北の江ノ島が入ってきます。総合計画検証委員会では、これから3年間どうやったらできるんだということを、しっかり提示していきたいと思います。委員からは「こうあるべきだ」というものが出てくるかもしれません。その際は、ぜひまた、資料を説明したうえご意見をいただきながら、次年度につなげていきたいと考えております。今すぐに動ける状況かということ、難しい状況もあります。担当課としては、以上です。

(議長)

町長、お願いします

(町長)

少し補足をさせていただきます。今、担当課から説明しましたがけれども、今年度、令和2年度において予算化をしたものは、VRを使って、このまちづくりを画面で見ようということ。視覚でどう構想を練り上げていくかというところを、業者発注しましたので、今ある江差町の画に、そこに立った時の映像で、画面で見る事ができるようになります。そして、ここに建てたらどういう風景になるだろう、ここにこれを配置したらどういう使いやすさになるだろう、そういうことも検討しながら、構想を練り上げていくというのが令和2年度の段階です。

もう一つは、その中身についてです。もちろん役場も一生懸命に考えているところですが、それだけではなくて、町外の民間企業、特にブランディングとか魅力付けというところに得意な企業さんと少しお話をしながら、魅力ある地域、エリアにしていこうということで、今、案を策定しているところです。ですので、その案が固まりつつある段階になりましたら、皆さんに、住民の皆さん、あるいは議会の皆さんにお示しして、またそれを積み上げていって、修正するところは修正して、完成をさせていって、実行に移していきたいというふうに考えておりますので、着実に進めているということをご理解いただければと思っております。よろしくをお願いします。

(議長)

その他、よろしいでしょうか。

(D委員)

今の町長の答弁で十分わかりました。ただ、北の江ノ島構想という言葉だけが勝手に独り歩きしていて、たとえばC委員が考える北の江ノ島と、私が考える北の江ノ島は全く違うかもしれない。だから、ある程度絵面として皆が同じ絵や夢を見ながら方向性を一緒にしていかないと、全く違うものが出来てしまう可能性もありますし、納得しない部分、例えば北の江ノ島構想というのは、町民向けかと思っている人もいるかもしれないし、外から来る人に対する事業だと思っている人もいるかもしれない。入口すらはっきりしないっていう。俺は、北の江ノ島ってのは、それぞれが勝手に判断していて勝手に頭の中で絵を描いている、という段階でないかなと思います。だから今、町長が答弁してくれたことをスピードアップして、みんなに見せることで同じ夢を見て、将来構想に携わっていけばいいものができるのではないかなって思っております。それに関連していくと、ぷらっと江差が、将来例えばどうあるべきなのかという話にもなるし、冬の間が弱いということは、外向きの施設なんですか？僕はぷらっと江差アンテナショップは、お土産買うところだと思ってないんですよ。だから、地元の人が曲がったキュウリ安く買えるぞって、お母さんが毎日買い物に行って、そこに観光客もいてっていうのが、理想なんじゃないかなって。で、そういうふうにと考えると、冬の間の売り上げがないっていう計算を考えなくていいので、もっと地元が使えるような店舗作りをした方がいいんじゃないかなって思います。

それともう1点、人口ビジョンの話でいくと、今住んでいる人なるべく定住できるように、と同時に、他所から入ってくる人をどう受け入れるか。江差の町に移住した人に、何のメリットがあるのかっていうのがまるっきり見えない。上ノ国町、厚沢部町、乙部町に勝る、江差町に移住する理由っていうのが、悪い方ばかり思いついちゃって、水道料が高いとか余計なことばかり思いつくんですけども、豊川町の奥に移住体験の家があるようですけども、あんな所に住んで、この町に住んでみたいと思うんだろうか。もっと景色が良くて、利便性の良いところで、賑やかなところに1週間なり1か月なり住んでみて、朝起きて窓開けるとオーシャンビューで綺麗だって、こんな景色のところに毎日住みたいなって思わせるような場所で体験させるべきであって、豊川町の不便なところで山の中にいて、十勝に住んでる人には申し訳ないと思うけれども、要は、車がなければ話にならないっていう場所じゃなく、江差の魅力を発揮できる場所で体験させてあげた方がいい。乙部町、厚沢部町の体験住宅は素晴らしいですよ。中庭があって駐車場があって、新築で温泉まで歩いて行ける。江差とえらい違いだ。もっと、江差に移住すると、こんなにいいことあるよっていうところを、もっと魅力アップさせてアピールした方が、この移住ってのが将来的に、先ほど健康推進課長が説明しましたが、出生率で多少、上がり下がりあってもやっぱり傾向とすれば減ってくし、そしたらどうするのってなったら、他所から来る人を狙うしかないですよ。もっと、江差は災害の少ない、自然が多い、そういう江差の良いところをもっとアピールして、他とは違うんだというところで移住者を増やしていくことを対策として、重点的に置いたほうがいいんじゃないかなという感想を持っています。以上です。

(議長)

ありがとうございました。私も意見書の回答のところでお試し住宅の話があったので、まあなるほどと思っています。ある意味、ワクワクするお試し住宅の方がいいだろうなと思いましたし、実際オペレーションとしてどうなるのかっていうのは、わかりませんが、もしその物件が気に入ったんだったら、買っていただいてもいいのかなっていうふうに思ったんですよ。そういうのを建てていくのはお金もかかりますけど、そうしていくと、今おっしゃった話で社会増につながっていくのかなと、そういうことで今回、町民福祉課長のところで作っていただきましたけれども、保持率というか外から入ってきた人が、どれだけ江差に3年後、5年後残っているのか。これは、私がもともと専門のカナダの移民政策のことで、特に中小の町や村に

移民を呼んでいくってのがありまして、その時に使われる指標なんです。その時に、英語で言うwelcoming community（ウェルカミング コミュニティ）というんですけども、要するに、暮らしやすい、引き受けてくれやすいウェルカムな場所かどうかってことで、その一つの指標として保持率っていうのが出てるんですね。ですから、そういうところを上げていくのかっていう話にもつながっていきますし、今後の江差の人口政策の話をするときには、避けては通れないのかなというふうにも、今、D委員の話を伺って思いました。

（E 委員）

他所から来た人で一番私が当てはまるのかなっていうのが、実は今、ここに住んでいなくて、函館から今日も来たんですけども、取材ですとか、お客様のところに行ったりですとか、そういう時しか江差には来ていなくて、なおかつ今、山っていうような話がありましたけれども、私、空知の由仁町ってところが出身で、由仁って本当に畑と田んぼしかないようなところで、ところが、ふるさと納税を見てみると江差より上にいるんですね。80位であれっと思って、「よく由仁頑張ってるじゃない。179市町村もあるのに」ってぐらいの。江差って、別な町から来た人にしてみると、すごく魅力がいっぱいあります。多少、ちょっと交通が不便かもしれないけど、さっきおっしゃったように、オーシャンビューですし、北の江ノ島構想っていうのができたり、すごく魅力的なところがいっぱいあるのに、割とふるさと納税って注目されているのに、なんでこんな107位なんだと。魅力度はすごくあるはずなのに、江差って名前だけで、さっき東京でネームバリューがないっておっしゃってましたけど、江差追分を通っていると思いますし、それに比べて由仁町なんて全然、「なに？」みたいな感じだと思うので、その魅力度をもっと、それこそ移住定住にもつながると思いますけど、まず関心を持ってもらわないといけないので、それには、このふるさと納税って非常に活用するのがいいチャンスなんじゃないかなと。海の物も山の物もあるわけですから、そういったことが直感的に感じたことと、あと以前もお話ししたかもしれないですけど、江差って本物があるところだと思うんです。函館で、あるお年寄りから「どこからいらっしゃったんですか」って聞かれたので「札幌から来ました」って答えたら、「奥地からいらっしゃったんですね」って言われたんですが、まさに本当に江差、松前、函館っていうのは、北海道で最初に開けたところであるので、本物が残っているんです。

いにしえ街道なんて、本当に素敵なおとこだと思いますし、開陽丸もああいうふうに戻元してあって、で、鷗島も魅力的ですし、姥神のお祭りなんかは一度拝見しましたが、すごいお祭りだなんて感動しましたし、そういったものがあるのってなかなか北海道になくて、そのなかでも色々ご事情があると思うんですけども、本物中の本物「横山家さん」どうなっていくのかなっていうのがすごく気になります。まあ色々ご事情があると思うんですけど、数少ない本物が残っている町として、もっと国民が注目して、ふるさと納税なんかを利用しながらPRしていけば、ちょっと行ってみよう、素敵なおとこだからちょっと住んでみよう、というふうにつながっていくんじゃないかなっていうのを、今日一番感じたことです。

（議長）

ありがとうございました。他の方、いかがでしょうか。

（F 委員）

お疲れ様です。私は、地域活性化協力隊っていう代表ということで、今日この場に参加しているんですけども、この地域活性化協力隊をご存じない方もいると思うので少し説明させていただくと、江差町内で会社員ですとか自営業ですとか、30歳～40歳くらいまでの世代の若者。大した若くもないと思うんですけど、10人ちょっとで活動しているメンバーです。こういう会議ですとか、タウンミーティングとか、声をかけても人の前で話せないとか引込み思案なのか、なかなか出て来てくれないメンバーで、結局私が出てくるということになるんですけれ

ども、みんなで集まるとそれなりに問いかけると、皆それぞれいろんな意見を持っているんで、できるだけ私が持っては来ようと思っているんですけど、子育て世代ですとか働いて稼いでる世代なので、今後の江差町の核になっていく人たちなので、できればぜひ、これからは、なるべく私も働きかけていこうと思っているので、よろしくお願いします。

あともう一点お願いがあるんですが、私は函館出身で、まあちょっと江差で住もうと思いつながら10年いて、これからもいようと思っている人間なんですけど、郷土芸能に触れさせていただく機会がありまして、私自身、江差追分踊りの保存会に入っているんですけども、やはりどこの保存会も人手不足、あと高齢化で、なかなか思うように活動が出来てないところが多いと思うんです。先ほども言ったんですが、函館や道南でもこういうたくさん郷土芸能がある地域ってないと思うんです。だから、こういうのも大事にして、できるだけいろんな人が触れられるようなことを、できればやっていただけたらなと思っています。あと、追分保存会に興味ある方、入りたい方いましたら、私までぜひよろしくお願いします。ありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。説得力のある、活動に裏付けられた話かというふうに、今の活性化協力隊の方も色々と考えておられるということなんで、考えておられることを可視化できるように機会があるといいのかなというふうに思いました。せっかくなので、そういう機会を作っていければいいのかなと思いました。

(G委員)

私からは、成果シートの17番「がんばる商店街等応援補助」と、46番の「まちづくり推進交付金（空き店舗等再生促進事業）」について、意見を言いたいと思います。地方創生の一環で、がんばる商店街ということで町から補助金をいただいてスタンプラリーなどいろんなことをしているんですけども、商店街自体がかなり疲弊してると思いますか、高齢化で後継者がいないような実態がほとんどなんですね。町長からも、C委員からもありましたけれども、北の江ノ島構想を推進していただくことによって、町の商店街の活性化が図られる部分もあるのかなって思います。そう簡単にいかない部分もあるのかもしれませんが、早く進めていただかないと商店街、商工会がもっと衰退してしまいますので、その点お伺いします。

(議長)

ありがとうございます。では、産業振興課長。

(産業振興課長)

商店街の関係でお話が出ました。回答書の10ページに書かせていただきましたが、これからの商店街のあり方かと思います。商店が集まる商店街から、生活を支える街区ってのがキーワードになっていくんだろうなと思っています。まずは、どういう商店街になるかというポイントに支援していきたいというのが、一つ考え方としてあります。

商工会さんが来年から始める経営発達支援事業のなかには、空き店舗対策もたしか組み込まれていたと思います。そこには、新たな人を呼んでシャッターを開けさせるんじゃなくて、今もうやめよう、リタイアしようとしている人に、事業承継ということでシャッターを開けたままにさせるという取り組みが載っていたと思います。すごいと思って、見させていただきました。何とか商工会と連携して、そういったところに地域おこし協力隊を入れるだとか、いろんな施策をお互いにやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(議長)

ありがとうございました。それでは時間も押して来ていますので、もし良かったら、H委員、

水土里の会の会長として何かございましたでしょうか。水土里の会さんはいろんなものを江差のブランド化につながるような取り組みをされていると思うんですけども、いかがでしょうか。

(H委員)

水土里の会では、私が一番年上なんだけど、賑やかでワイワイ楽しくいろんなことを話しながら、江差町の話とかおしゃべりしながら、結構楽しんで作業をやっております。そしてまた、地域の皆さんも、人手が足りない時はお願いすると、みんな快く来てくれて何とか頑張っていけるかなって思っております。

もっともっと会員が増えればいいんだけど、どこも皆さん高齢化が進んでいるというのが一番で、畑を見回しても人の数はいない。あるのは機械だけで、だけどトラクター2〜3台並べると、家1軒買えるくらい高価なものだから、そうそう後継者もできない。ある程度の基盤のある方はできるんだけど、この間うちの息子と話をして、このいろんな作物の中で「今年も機械入れて大丈夫かい」って聞いたら、「母さんには教えない」って。ある程度は分かるんだけど、本当に大変な経営が、みんなの目の前に迫っているんでないかなと思って。若干心配しながら、尻たたきながら。

皆さんで水土里の会のことも息子にも応援してもらってるし、会員の皆さんのご主人とか息子も、皆さん快くしてくれるので何とか頑張っていけるかなって思っております。

(議長)

ありがとうございます。私もよく、水土里の会さんが作られたものを買って、いつも美味しくいただいていますけれども、まさに第一次産業というのをどういうふうにしていくのかということも、今回そういう話も出ましたが、やはり今後人口が減っていく中でそこを考えていかなければならないんだらうなって、改めて今の話を伺って思います。それでは、I委員、労働の立場から何か一言どうぞ。

(I委員)

前回の会議から出席させていただいていますが、大変中身の濃い議論をされたときに参加していなくて、失敗したなっていう思いです。参加して1回目の時は、ちょっと勉強するのになかなかついていけないという状況がありましたけれども、2回目は事前に資料いただきまして、時間をかけて目を通してきました。

この手の戦略検証については、なかなか実績というものは上がりづらいものだと思いますが、この4〜5年の間に数字にすれば小さいのかもしれないんですけど、一定の評価できる部分が見受けられると。これは大変いい材料だなと自分は感じています。そういう面では、そのいい結果が出ているところを、みんなでより効果が上がるように連携をしっかりと取って作り上げていくと。こういうことが大事ではないかと考えておりまして、町長には連合の新年交礼会のときに、挨拶の中で「しっかり自信をもって行政にあたっていただきたい、頑張っていたきたい。」ということをお話しさせていただきました。町政を進めるなかでは、どうしても町長が足をすくわれるという心配もありますんで、その時には、できる限り我々としても協力をしていくと。なぜそのことを申し上げたかといえば、連合になってから30年たっていますが、檜山は産別の数が少ない地協ではあるんですが、それにしてもこの30年で約3分の1の産別が江差から撤退してるということ。こういう状況をみて、何としてもここは、働く場を確保するために我々としてもしっかり行政・民間の皆さんと共に、頑張ってしっかり連携を取っていかなければ、本当に自分たちが埋没しまうという思いが強くございまして、いろんな方に参加くださった新年交流会の中で、町長には本当に自信をもって邁進していただきたいと申し上げたとおり、皆さんと共に努力を、せっかく今効果が出て来ているわけですから、この次につなげ

ていきたいと考えておりまして、また機会を得られるならば、こういう会議に参加してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

(議長)

ありがとうございます。非常に大事なご指摘で、やっぱり見える化の意味のことだと思うんですね。今回、I委員は資料をご覧になって、成果が出て見えている。これをやはり、個々の委員の方だけではなく、町民の方にどうお伝えしていくのか、今、I委員がおっしゃったように、それを「自分たちごと」にしてみんなでまちづくりをしていく。まさにそういうところが、第6次総合計画の町の目指すビジョンにも入っていますので、役場の方々にもすごいご苦労をかけて作っていただいていますので、でもこれは町民の共有財産ですので、そういうところを積極的にシェアをして、考える材料にしていきたいというのが、今伺っていて思いました。

(J委員)

私が言いたいことは、今I委員に言われたことが大半でして、私はこちらへ来る前には奥尻町にいて、その前は札幌から来たんですけど、なんか皆さん自信なさげなんですよ。歴史が素晴らしいものもありますし、今回の指標についてもI委員が言われたとおりに、他の地域では傾斜をなだらかにするのが精いっぱいなところなのに、それを少し上に上げられたということについては、これは素晴らしいことだと思うんですね。そのことをやってこられた地域ってのは、自信を持っていいのではないかなと。で、そこで自信をもって行動していただければ、周りから応援してくれる人はいっぱい来るでしょうし、その自信の積み重ねが、より良い地域を作っていくのではないかなと思っておりますので、できれば成果が出たものは自信を持って「こういう町だよ」って、「ちゃんと実績を出した町だよ」って、「こういうことをやって、ちゃんと観光も頑張ってるよ」っていうところは、胸を張って発言していただければいいかなと思っています。そうしていただければ、皆さんまた笑顔のあふれる町になると思いますので、明るい地域となって、またそこからさらにステップアップしていくんじゃないかなと思っています。雑ばくな感想にとどまってしまうんですけど、締めさせていただきます。

(議長)

まさに今、J委員がおっしゃったように、なんとなく見ているとネガティブな話になってしまったり、そういうのもなんとなく雰囲気になっちゃう。そういうのが、やっぱり地方創生みたいな話になると、どうしてもそういうふうになってしまいますんですけど、だからこそ、データをきちっと見ることによって、ネガティブな部分もあるけどポジティブな部分もある。芽が出そうなところがある。そういうところを、きちっと押さえていくことが、やはり大事です。そうすることによって、未来に向かって進んでいけるんじゃないかなと思いますし、先ほどH委員もおっしゃいましたが、活動とか事業をやるときも楽しくやる。楽しくやるためにはどうすればいいか、ということをする、笑顔が増えてくるのではないかなと思いました。そんなに簡単じゃない部分もあると思いますが、そういうことが大事だなと思いました。すみません、お待たせしました。K委員、金融機関の立場から何かございませんでしょうか。

(K委員)

この総合戦略の資料については、すごく成果が上がっていると私は認識しております。仕事柄、全道各地でさまざまな取引きがあるんですけど、やはりどこの地域も人口が減っているなかで、チャレンジしている江差町は素晴らしいなと感じております。経済合理性からいうと、当然、外から人を入れたり何かを入れないと増えていかないというところがありますので、私は、例えば東京特別区の大田区と連携されているというのは、このつながりは活かして

ワーケーションだとか企業誘致だとか、何かこれという成功事例に結びついていただくと、いわゆる経済の基盤が一つでき、それに向かって人が動き、明るい未来に結びつけられるのかなというふうに思います。先ほどから言っております、北の江の島構想の具現化ができることで、さらに魅力ある地域になるかなと思いますので、地元としては、北の江の島構想の具現化、それと外からの人の入り込みということで、移住ということと、経済を回すということで、企業誘致とかそういった形が相乗効果を得られれば非常にいいのかなと思っていますので、これからの活動にご期待申し上げたいということです。以上です。

(午後 3 時 35 分)

(3) 検証結果の総括

(議長)

私も大田区とのつながり、関係人口と交流人口の話になると思うんですけども、拝見して、例えば大田区民が江差にくる理由って何かあるのかなって思ったりして。それで、大田区民が江差に来たら、何か割引があるのかとか、そういうことも感じていたんですけども、先ほどD委員の話にあったと思いますけれども、なぜ江差なのかということなんですよ。要するに目的地としての江差、それは旅行であれ移住であれ、何のためにここにくるのかということを、今後も問い続けていかなければならない。これはたぶん答えが、一つの正しい答えがあるわけではないと思いますので、ずっと問い続けていくことが大事なんだろうなと思います。

最後、まとめに入りたいと思うんですけども、今回人口ビジョンの目標値と社人研の推計値を比べていて、今、江差町が色々なことを努力されて来て、少なくとも社人研の推計値のレベル。それとそこをちょっと改善したようなところで頑張っておられるということですね。一方で、社人研の推計値というものも予測がけっこう当たるといえるのか、人口推計に関しては、あまり当たり外れがないということは、ずっと前から言われていることです。そうなりますと、よほどのことをしない限り、今示されているようなグラフの形で人口が減っていく。先ほど運営費の問題も出てきましたけれども、今後町の資源をどういうふうに組み合わせていくのかということが、ますます問われてくると思います。その時に、6次総合計画にも関わらせていただいたので申し上げたんですけども、やはり江差の方が、どういう生き方、暮らしをしていくのか。何を重要な価値として考えていくのかということこそをきちっと持つことによって、いくら人口が減っても、その中でも笑顔で暮らせる江差があるはずなんです。

そこをきちっと押さえながら、データも見ながら、それぞれの施策をつなげながらやっていくということが大事なんだろうというふうに思います。

第1期の総合戦略をずっとご一緒させていただいて思うのは、皆さんからもありましたけれども、結果が出ているところがありますので、目標に届かなくても、途中までは行けてるわけですから、それをやはり続けていくことが大事なんだろうというのを、改めて今回データを見て思った次第です。6次総合計画では、10年後の目指すまちの姿として「誇りある暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとのまちづくり エエ町、江差。」ということになっています。北の江の島構想にしても、何にしても、そことどうつながっていくのかということがブレなければ、江差がずっとこれまで紡いできた生き様が残っていくんじゃないかなと思っていますので、ぜひ皆さんも今後も総合戦略とか総合計画の話は続いていきますので、それぞれのお立場で、ご協力をいただけるといいなと思っています。

最後に、副委員長から一言お願いします。

(副委員長)

自分が言いたいと思っていることが先に言われたので、先ほど委員長と話をしていた点でいくと、ぷらっとの冬期間の売り上げがなかなか難しいと思うところがあると思うんですよ。や

っぱり地元の人に使ってもら。ぶらっとは道の駅ではないですが、同じような立ち位置だと思うので、他の町の道の駅を見てみると、地元の方がよく使われていてプラス観光客がいて、という形だと思うので、先ほどD委員が言っていましたが、もっと地元の人が使うような場所になったらと思います。

ふるさと納税の方でいくと、近隣町で八雲や森町が20億円とか16億円で上位にいますので、さっき誰が言ったか忘れましたが、江差町というネームバリューがあるのであれば、もっと上の方に。経営の視点からいくと、扱い品目数が多い自治体の方が、比較的上位にいるのかなと思うので、根室のように4,000とはいかなくとも、せたな町くらいの300、400くらいの品揃えがあれば、まだ上の方にいけるのではないかなと思いました。

あと、気になった点で、社人研の人口ビジョンの数値で、総数の人口はほぼ予想どおりになっていますが、14歳以下の子どものところはけっこう大きく減ったなという感じがして、それ以降を見るとどんどん減っていくので、中学生以下の子どもになると思うんですけど、ここが今後の江差町を支えていく、力になるところだと思うので、ここが減ったということを改善できるように、全体数だけではなくて、子どもの人口も増えるようになればいいなと思いました。以上です。

(議長)

先のふるさと納税の話ですけれども、件数は、北海道は下の方ですけれども、金額は上なんですよね。単価はどれくらいか計算してみたら、48,000円とか50,000円近く出されているんですよ。やっぱり道内の方には、響く。もちろん江差町出身者の方も多いのもあるんでしょうが、こういう地域の、どの地域とどう関わっていくのかというのを、先ほどの大田区の話もありましたけれども、考える事かなというふうに思いました。すいません。だいぶ延びてしまいましたけれども、ここで事務局にお返しします。ありがとうございました。

7 その他

(特になし)

8 閉会

(事務局)

皆さん、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。ずっと聞いている中で、やはりまだ私たちは、これを第2期と言わず、来年度すぐできるところから展開していきたいと考えておりますので、また今日に限らず、日頃からご意見等お願いします。今日は本当にありがとうございました。

(午後3時45分)